

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【音楽科】

1. 対 象 4年生

本学級の児童は、歌うことや演奏することに前向きで、音楽を聴いて感じた曲想を素直に表現できる。歌唱においては、発声を意識し響きのある声で歌うことができている。しかし、「小さな世界」で2つのパートを合わせて歌ったときは、つられないようにと力が入り、強い声になってしまう児童も多かった。特に、輪唱と違って2つの旋律を同じリズムで動く和声的な合唱の経験がないため、音程を保って歌うことが難しいと予想される。本教材を通して、響きのある声で音を合わせて歌うことの楽しさを感じてほしい。

2. 題材名 「せんりつの重なりを楽しもう ～Let's ハーモニー！～」（全9時間）

3. 題材の目標

知識及び技能	曲想及びその変化と、旋律や音の重なり、音色などの音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な互いの歌声や楽器の音を聴いて、声や音を合わせて表現する技能を身に付けている。
思考力、判断力、表現力等	旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲全体を味わって聴いたり、どのように表現するかについて思いや意図をもったりしている。
学びに向かう力、人間性等	旋律や音の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4. 言語活動

自分たちの演奏を聴いて感じたことや、よりよい演奏にするために考えたことを言葉で表現し、「音楽を形づくっている要素」の言葉を使いながら友達と話し合う。

5. 本時の目標

自分たちの合唱をよりよくするための改善点や方法を考え話し合うことを通して、旋律や音の重なり、声の音色に着目して、何に気がつけたらよいかに気付き、互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌っている。

6. 授業展開

解決したい課題や問い

どうしたら自分たちの「もみじ」の合唱が、そろったきれいなハーモニーになるだろう。

考えるための材料

①自分たちの歌声を録音した音源 ②模範の音源 ③パートごとの音源 ④楽譜

想定される活動

- ①繰り返し聞き、自分たちの合唱の改善点を見つける。
- ②お手本の演奏から、2つの旋律の音程やリズムが合うとどのような響きになるのかを聴きとり比べる。
- ③音程を確認し、難しいと思うところを具体的に捉える。
- ④輪唱風な重なり、和声的な重なりなどの特徴を視覚的に捉え、音の長さやリズムを意識する。感じたことを書き込む。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- 録音を聴いて感じた課題について、大まかに考えたいものを選ぶ。どこをどうしたらよりよく歌えるかを考え、書き込む。（15分）
- 〈声の音色〉（音色）
- ・もみじのきれいな景色に合うように、どなった声じゃなくてやさしい声がいいよね。
 - ・まつをいろどるところはいいけど、最初の「あきのゆうひに」をもっとやさしくしたいな。
 - ・アルトの「かずあるなかに」も突然強く聞こえるよ。
 - ・気がつけたいところに印をつけておこう。

〈音程〉（旋律、音の重なり）

- ・最初はいいけど、「まつをいろどる」がつられちゃうね。
- ・どうしたらいいのかな。アルトだけの音を聴いてみよう。
- ・「ま」の音がむずかしいよね。そこだけ何回も練習した方がよさそう。
- ・最後の「すそもよう」の「う」もきれいにそろえたいね。

〈タイミング〉（音の重なり、リズム）

- ・「やまのふもとの」が速くなって合っていない気がする。
- ・「やー」の伸ばすところが短いんじゃないかな。
- ・ソプラノの「やまのふ」を聞いたら「まの一」と歌うようにしたらいいと思うよ。

○考えたことを共有し、気をつけながらクラス全体で何度か歌ってみたあと、録音して聞く。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・最初のところが思っていたより強い声になってしまっていたから、やさしい声で歌ったらみんなの声がきれいにそろったよ。
- ・まつをいろどるの「ま」のところを意識したら、音が合うようになったよ。一番盛り上がるところだから、自信をもって歌えると気持ちがいいな。
- ・自分のパートだけではなくて、もう一つのパートも聴きながら歌うと合うことがわかったよ。